

社会的インパクト評価ツールセット ホームレス支援

Version 1.0

2019 年 6 月 28 日

社会的インパクト・マネジメント・イニチアチブ
アウトカム・指標ワーキング・グループ

I. はじめに

本評価ツールでは、「ホームレス支援」を分野として取り上げています。我が国におけるホームレス支援に関する法律には「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」がありますが、この法律ではホームレス及びホームレス支援の目標を次のように定義しています。

<ホームレスの定義（法第2条）>

・ホームレスとは、都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者をいう。

また、ホームレス支援の目標を次のように定義しています。

<ホームレス支援の目標（法第3条）>

1. 自立の意思があるホームレスに対し、安定した雇用場の確保、職業能力の開発等による就業機会の確保、住宅への入居の支援等による安定した居住場の確保並びに健康診断、医療の提供等による保健及び医療の確保に関する施策並びに生活に関する相談及び指導を実施することにより、これらの者を自立させること。
2. ホームレスとなることを余儀なくされるおそれのある者が多数存在する地域を中心として行われる、これらの者に対する就業の機会の確保、生活に関する相談及び指導の実施その他の生活上の支援により、これらの者がホームレスとなることを防止すること。
3. 前二号に掲げるもののほか、宿泊場所の一時的な提供、日常生活の需要を満たすために必要な物品の支給その他の緊急に行うべき援助、生活保護法による保護の実施、国民への啓発活動等によるホームレスの人権の擁護、地域における生活環境の改善及び安全の確保等により、ホームレスに関する問題の解決を図ること。

このように、「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」においては、ホームレスを「現にホームレス状態にある者（安定した居所のない者）」とし、その目標を「雇用場や居住場を確保することによるホームレス状態からの脱却」及び「ホームレス状態になることの予防」に定めています。

これに対して、本評価ツールが対象とする「ホームレス支援」とは、「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に位置づけられている支援はもちろん、この法律の範疇にはおさまらない「ホームレス状態から脱却した後の継続的な支援」など、「ホームレスがホームレス状態を脱却し、その後自立した生活を送り続けるために行われる支援全般」を想定しています。

したがって、支援を受ける対象者は、「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法に定義された、現にホームレス状態にある者（及びそのおそれのある者）」に限定せず、「ホームレス状態を脱却した元ホームレス」を含めた、「このような支援を必要とする全ての方々」を想定しています。

II. ロジック・モデルをつくる

社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル「Step 1: ロジック・モデルをつくる」参照

II.1. 事業の目標と受益者を特定する

本評価ツールでは、対象事業となるホームレス支援の最終的な目標を、支援対象者である「ホームレス（元ホームレスを含む）」が「様々なプログラムを通じて、本人が望む場所での自立した日常生活を送ること」としました。したがって、事業（プログラム）の主な受益者を「ホームレス（元ホームレスを含む）」としました。

また、「ホームレス（元ホームレスを含む）」が望む場所での自立した生活を送る」という目標の達成に向けて、地域（地域住民）へのアプローチも必要であると想定されることから、地域（地域住民）も事業（プログラム）の受益者に設定しました。

II.2. アウトカム（成果）のロジックを考える

対象事業（プログラム）の成果・効果を評価するために、まずは、事業（プログラム）の設計図ともいえる「ロジック・モデル」を検討し、明確化する必要があります。本評価ツールにおける「ロジック・モデル」とは、事業（プログラム）や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示したものです。

本評価ツールでは、対象事業（プログラム）の成果・効果を評価するために、事業（プログラム）の受益者である「ホームレス（元ホームレスを含む）」「地域（地域住民）」について、事業（プログラム）を通じて達成したい成果・効果・目標（総称してアウトカム）を「ロジック・モデル」として整理しました（図表2）。II.2.1以降で、アウトカムについて具体的に説明します。

なお、本評価ツールは対象事業（プログラム）のアウトカムを測定することに主眼が置かれていますが、事業（プログラム）改善のための評価に際しては、図表1に示した①～⑤も併せて評価する必要があります（これら①～⑤を『プログラム評価階層』といいます）。

図表1 ホームレス支援の評価とプログラム評価階層

評価階層	問うべき事項の例
①ニーズ評価	・実施している（あるいは作ろうとしている）事業（プログラム）はホームレスの人たちにとって本当に必要な事業・プログラムなのか。
②セオリー評価	・実施している（あるいは作ろうとしている）事業（プログラム）は意図した成果・効果の達成に向けて妥当な仕立て（ロジック・モデル）になっているか。
③プロセス評価	・事業（プログラム）は当初意図した通りに（②セオリー評価で仕立てたロジック・モデルの通りに）実施されているか。
④アウトカム評価	・事業（プログラム）は意図した成果・効果（②セオリー評価で仕立てたロジック・モデルの成果・効果）を達成することができているか
⑤効率性評価	・事業（プログラム）に投入された資源（資金・人材・労力など）は適切なものであったか。

（コラム）インパクト・マネジメント・サイクルと評価階層について

例えば、前述した5つの評価階層をホームレス支援に当てはめて考えたとき、完璧な戦略の事業（プログラム）が出来たとしても、それを支援対象者であるホームレス自身が必要としていなければ仕方ありません（①ニーズ評価の不足）。

また、ニーズはあったとして、このニーズに一生懸命に応える事業を行っても、この事業（プログラム）が達成すべき成果・効果、そのために行うべき活動が何かを明確にしていなければ、事業実施者は何を目指して、何をすべきなのかわかりません。また、事業（プログラム）を改善したいと思っても、何を見直せば良いのかわかりません（②セオリー評価の不足）。

さらに、妥当と思われる戦略が出来上がり、それを事業（プログラム）として実施したとして、その実施状況を適切に評価（モニタリング）していなければ、例えば、意図した成果がみられなかったとき、それが「事業（プログラム）が適切に実施されていなかったことが原因なのか」、あるいは「事業（プログラム）は適切に実施されていたものの、そもそも事業（プログラム）の戦略が誤っていたのか」の判断が付きません（③プロセス評価の不足）。

そして、事業（プログラム）が意図した戦略の通りに実施されていることを確認したとして、その結果、意図した成果・効果を確認しなければ、「この事業（プログラム）はこれから先も継続していくべきなのか、それとも中断すべきなのか」、「より効果的なものへと改善を図る必要があるのか、それとも今のままで良いのか」の判断が付きません（④アウトカム評価の不足）。

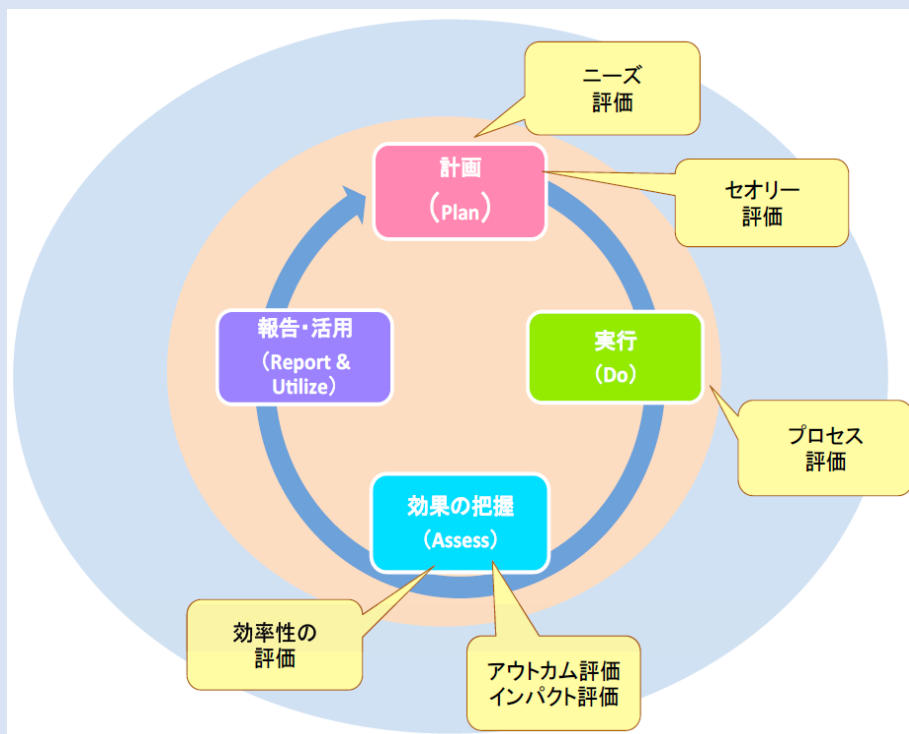
最後にホームレスの人々のニーズにも叶い、妥当な戦略のもとにしっかりとした成果・効果を生み出している事業（プログラム）だったとしても、その実施のために莫大な資金が必要であれば、この取り組みを継続していくことはできません（⑤効率性評価の不足）。

以上のことは、右の図に示したように、インパクト・マネジメント・サイクルの4つのステージ（計画、実行、効果の把握、報告・活用）と対応させることができます。

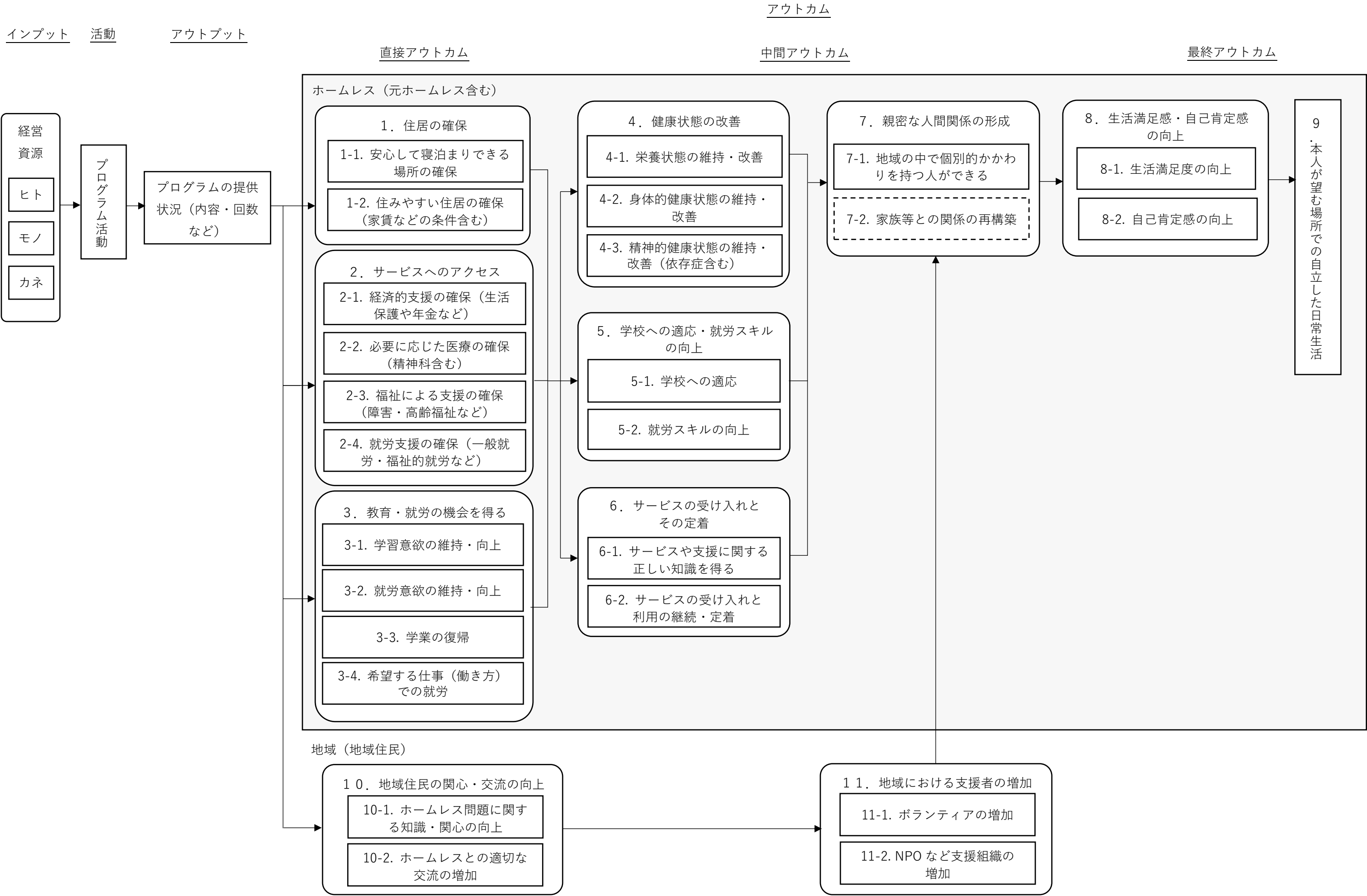
なお、このことの詳細は、社会的インパクト・マネジメント・ガイドライン Ver1 に記載しておりますので、そちらをご参照頂ければと思います。

（図の出典）

源由理子氏（明治大学ガバナンス研究科教授）作成の図を一部改定



図表2 ホームレス支援における一般的なロジック・モデル



II.2.1. 直接アウトカム

ホームレス（元ホームレスを含む）に様々な支援を行うことの成果として、まず、ホームレス（元ホームレスを含む）が「住居を確保すること」や「サービス（経済的支援・医療・福祉・就労など）へアクセスすること」「教育・就労の機会を得ること」が想定されます。

例えば、ホームレスの人々が、都市公園や河川、道路などで寝泊りをする姿をみかけることがありますが、いくら夜とは言っても夏場は暑く、冬場であれば命すら落としかねない厳しい寒さがあり、また、時折新聞やテレビのニュース等で報道されますが、ホームレスの人々が暴力行為などの事件に巻き込まれ、大怪我や場合によっては命すら落としかねない危険な状況があると考えられます。このような状況を防ぐためにも、まずは「住居（あるいは、緊急一時宿泊施設など）」を確保することが大切であるといえます（**住居の確保**）。

また、長いホームレス生活（あるいは長くないとしても慣れないホームレス生活）を送るなかで栄養状態も偏り、不衛生な状況のなかに居続けることで健康を損ねる人も多くいらっしゃると思います。仮に身体的には健康であったとしても、精神的には何かの不調や疾患を抱えていることも少なくはないでしょう。あるいは、経済的な問題、生活をしていくうえで必要な能力が欠けているなどの問題もみられることがあるでしょう。このような場合、必要に応じて医療サービスを提供することや経済的支援を行うこと、そして福祉や就労支援等を行うことが必要になると考えられます（**サービスへのアクセス**）。

さらに、ホームレス生活を送る人のなかには「機会があれば働きたい」と考える人もいます（実際に日雇いの仕事などで生計を立てている人々もいらっしゃいます）。若い人であれば、もう一度、大学や専門学校（あるいは高等学校）に通いなおし、勉強をやり直したいという人もいるかもしれません。こういった方々には、「希望する仕事（働き方）での就労」や「学業への復帰」が重要な目標になると考えられます（**教育・就労の機会を得る**）。

一方で、地域の方に目を移すと、ホームレスに対して強い偏見をもっている人々（地域住民）や全く関心をもたない人々（地域住民）がいることも事実です。このような地域社会では、いくらホームレス（元ホームレス）の人々が努力をしても、あるいは支援・サービス機関がホームレス（元ホームレス）を対象とした支援・サービスを展開しても、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々の社会復帰、地域生活の実現は困難を要するものになってしまうでしょう。そこで、地域（地域住民）にとっての直接アウトカムとして「ホームレス問題に関する知識や関心の向上」及び「適切な交流の増加」が求められます（**地域住民の関心・交流の向上**）。

したがって、本評価ツールにおいては、ホームレス（元ホームレスを含む）の「住居の確保」及び「サービスへのアクセス」、ホームレス（元ホームレスを含む）が「教育・就労の機会を得る」、そして「地域住民の関心・交流の向上」を直接アウトカムとして設定しました（図表2・3）。

II.2.2. 中間アウトカム

ホームレス（元ホームレスを含む）に様々な支援を行うことの成果として、次に想定されるのが「健康状態の改善」と「学習したことやサービスの維持・定着」そして、「親密な人間関係の形成」です。

例えば、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々が安心して寝泊りできる住居を確保し、必要に応じて福祉サービスなどを受けていれば、これまでは栄養の偏った食事、あるいは、そもそも全く食事が

摂れない状況によって悪化していた栄養状態が改善し、また、病院での診察や状態に応じた薬の処方、必要に応じた入院などの医療サービスが提供されることで、身体的にも精神的にも健康を取り戻すことができるようになるでしょう（**健康状態の改善**）。

また、「働きたい」あるいは「学業に復帰したい」という希望をもつホームレス（元ホームレスを含む）が就労支援や学業復帰のための支援を受け、実際に就労や学業への復帰を達成した後は、学校へ適応していくことや就労スキルが少しずつでも向上し、維持されることが期待されます。なお、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々を対象とした支援で留意しておきたいことは、一度、福祉などの支援（サービス）に繋がったとしても、ホームレス（元ホームレス）の人々自らが、その支援を拒み、支援を継続することが困難になる状況もあるということです。これを「支援からの遁走」といいます。こういったことの理由はいくつか考えられますが、その1つには、「福祉は国のやっかいになること」「国のやっかいになることは恥ずべきこと」など、制度への誤解が生じていることもあると考えられます。こういったことを防ぐためには、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々が支援（サービス）を正しく理解し、その利用を気持ちの面で受け入れていく必要があると考えられます（**学校への適応・就労スキルの向上及びサービスの受け入れとその定着**）。

さらに、ホームレス（元ホームレス）の人々が様々なサービスにアクセスし、場合によっては就労や学業への復帰を達成するなかで、ソーシャルワーカーや生活保護のケースワーカー、福祉施設の職員、職場の同僚や上司、学校の友人などとの個別的なかかわりができるかもしれません。また、全ての人がそうではないでしょうが、家族との関係を再構築したいと願う人もいるかもしれません。これらのことは、地域生活を継続するといううえでの大きな支えとなるもので、大切なことであると考えられます（**親密な人間関係の形成**）。

一方で、公的な支援機関のみでホームレス（元ホームレスを含む）の人々に対する支援を完結することはできません。これはホームレスに限らず全ての人に言えることですが、人間は常に色々な人の支えを受けながら自分自身の人生を生きています。こういった観点から考えると、地域のなかにホームレス（元ホームレスを含む）の人々を支える様々な人がいて、様々な団体があることが大切になってきます。そこで、地域（地域住民）にとっての中間アウトカムとして「ボランティアの増加」や「NPOなどの支援組織の増加」が期待されます（**地域における支援者の増加**）。

したがって、本評価ツールにおいては、ホームレス（元ホームレスを含む）の「健康状態の改善」及び「学習したことやサービスの維持・定着」「親密な人間関係の形成」、そして「地域における支援者の増加」を中間アウトカムとして設定しました（図表2・3）。

なお、本評価ツールでは、直接アウトカムとしてホームレス（元ホームレスを含む）の「住居の確保」や「サービスへのアクセス」、ホームレス（元ホームレスを含む）が「教育・就労の機会を得る」ことが達成され、その先の中間アウトカムとしてホームレス（元ホームレスを含む）の「健康状態の改善」や「学習したことやサービスの維持・定着」「親密な人間関係の形成」が達成される仕立てになっています。

しかし実際には、健康状態の改善が先にみられ、その後に福祉サービスへのアクセスや住居の確保が達成される場合もあると思います。例えば、精神的な症状が悪く、常に被害妄想を訴える人がいたとして、まずは医療機関（精神科病院）にかかり入院治療などを受けることで精神的な症状が軽快し、その後に福祉サービスを利用しはじめ、住居が確保される、といったような場合です。このように成果・効

果を達成する順序がロジック・モデルに設定したものと逆になる場合なども想定されます。このようなこともあるため、本評価ツールはあくまで、一般的に最も想定される成果・効果の流れを記述しているものであり、ホームレス支援の実践現場の実際と完全には合致し得ないということに留意が必要です。

II.2.3. 最終アウトカム

ホームレス（元ホームレスを含む）に様々な支援を行うことの成果として、最終的に想定されるのが「生活満足感・自己肯定感の向上」及び「本人が望む場所での自立した日常生活」です。

例えば、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々が、様々な支援を受け、健康状態も良好で、仕事や学業もうまくいっており、日々の生活のなかで親密な人間関係も築けているような場合、高い「生活満足感」を得ることができ、また、「自分は自立して生活をしている」「仕事をする事で誰か（社会）の役にたつことが出来ている」といったような高い「自己肯定感」を得ることができると考えられます。

さらに、これら全ての成果・効果の先に「本人が望む場所での自立した日常生活」を想定することができます。ホームレス（元ホームレスを含む）への支援が目指す最終的な目標は、ただ単に「野宿生活から脱却すること（住居を確保すること）」だけではありません。本評価ツールにおいては、ホームレス（元ホームレスを含む）の人々が、自分らしく、自分が望むように、生き生きと生活を送っていくことを最終的な目標として想定しています。

したがって、本評価ツールにおいては、ホームレス（元ホームレスを含む）の「生活満足感・自己肯定感の向上」及び「本人が望む場所での自立した日常生活」を最終アウトカムとして設定しました（図表2・3）。

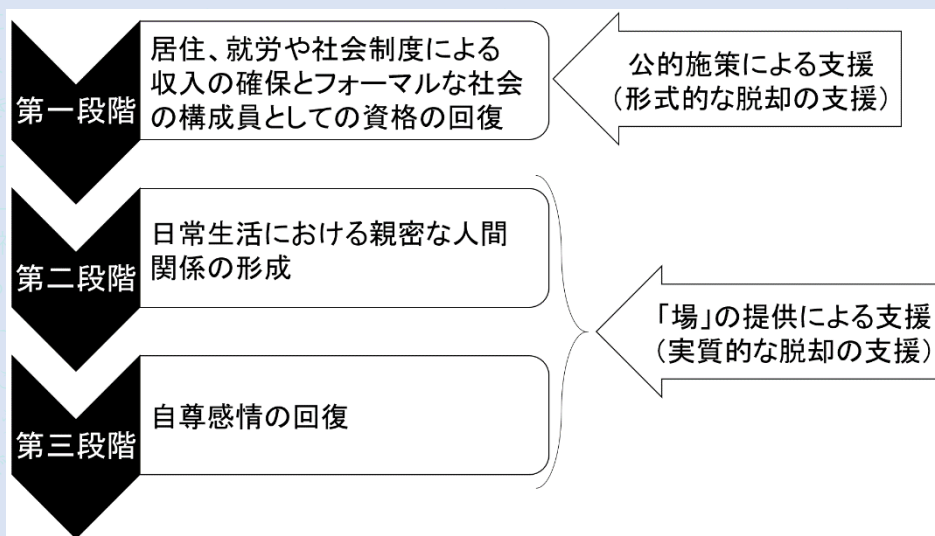
（コラム）ホームレス状態の脱却の3段階と支援（後藤 2013 より）

後藤（2013）は、その著書のなかで「ホームレス状態の脱却の3段階」及び「それぞれの段階に応じた支援」を下記の図のように示しています。これらは、NPO 法人山友会が行うホームレス支援の実践を分析・整理したもので、ホームレス支援においてホームレス自身も参加することができる「場」づくりが重要であることを表現しています。

この図からは「親密な人間関係の回復」や「自己肯定感（自尊心感情）」といった重要なキーワードを学ばせて頂き、本評価ツール作成のプロセスにおいても参考にさせて頂きました。

その結果、プログラムに参加するホームレス自身も、自分にはまだできることを意識し、積極的に参加できるようになりました。

（文献情報）
後藤広史（2013）『ホームレス状態からの「脱却」に向けた支援』明石書店



ロジック・モデルの例 事業内容：炊き出し

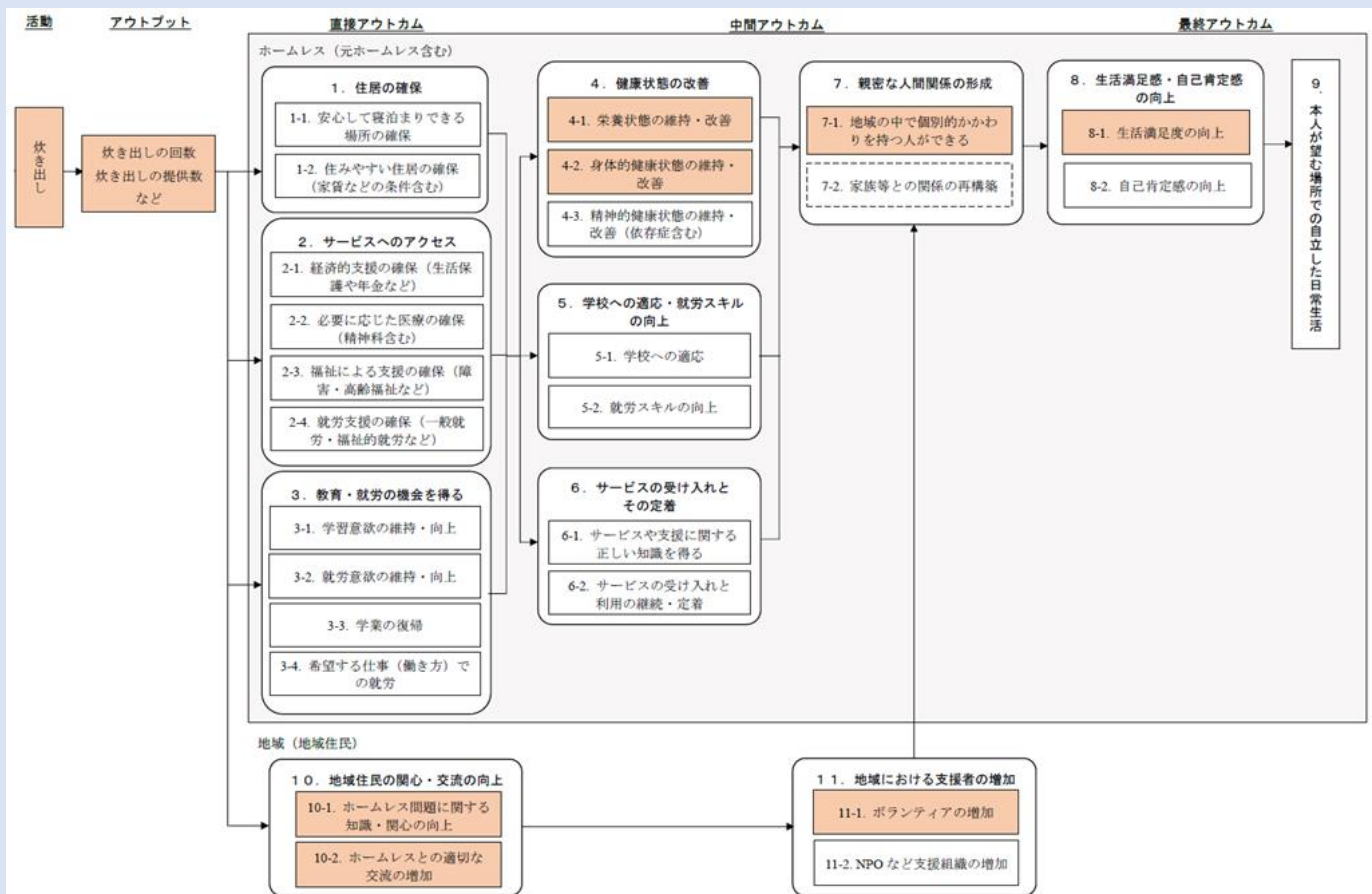
NPO 法人などが地域のボランティアの援助を受けながら温かい食事を提供する「炊き出し」といわれる活動があります。

この活動の結果、路上生活を送るホームレスは温かく、それなりに栄養価の高い食事を口にすることができ、少しは栄養状態の改善（4-1）、さらにこれに関連して身体的健康の改善（4-2）が期待できます。

また、炊き出しの活動は温かい食事を食べることができるということのほかにも、人の優しさに触れることができる、炊き出しを行う団体やこれを手伝う様々な人々との関係性を醸成していき（7-1）、これが生活満足度を向上させることに繋がっていきます（8-1）。

地域住民にとっても、自分が暮らしている生活圏内やその近くで炊き出しなどの活動が行われていることで、ホームレスの人々が置かれている現状に直接的に触れるきっかけが与えられます。これがきっかけとなってホームレスの人々が置かれている状況などへの関心が高まり、自ら学ぶようになるかもしれません（10-1）。またある人（地域住民）は、実際にボランティアとして炊き出しの活動などを手伝うようになるかもしれません（10-2・11-1）。

そしてこのような地域住民の変化があることで、またホームレスの人々と地域住民との良好な人間関係がつけられることが期待されます（7-1）。



ロジック・モデルの例 事業内容：ホームレス緊急一時宿泊施設

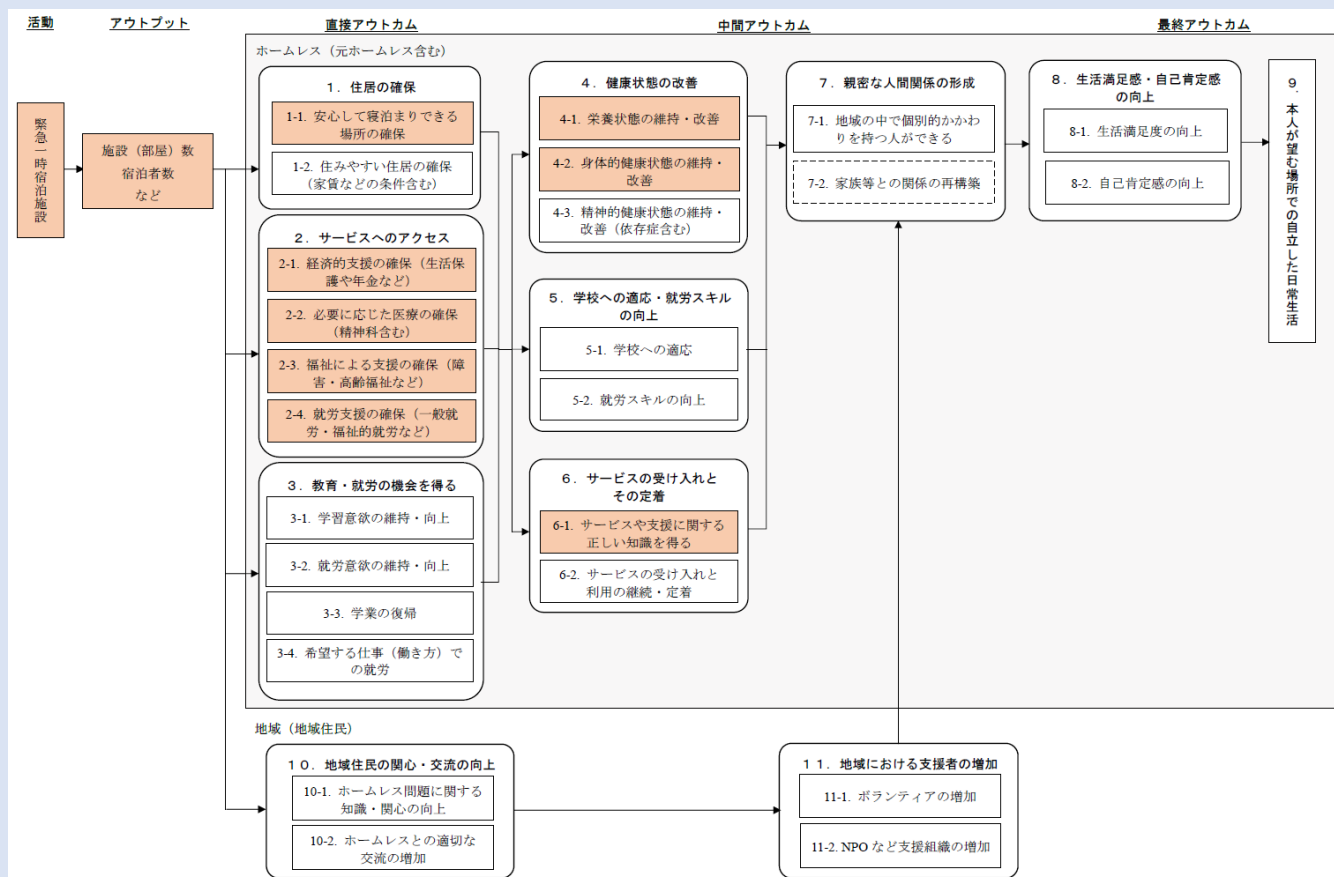
ホームレス緊急一時宿泊施設（略称：シェルター）は、ホームレスに対して、健康悪化を防止すること等を目的として提供される緊急一時的な宿泊場所です。

この施設には宿泊室や浴室（シャワー室）なども整備されており、この事業があることで、一時的にはありますが、安心して寝泊りできる場所が確保されます（1-1）。

また、この施設を利用中に、利用者の健康管理のために保健所と連携をして健康診断を実施したり（2-2）、福祉事務所と連携して生活保護制度の利用申請（2-1）や福祉サービスの利用（2-3）に繋がっていきます（6-1）。これらのことを通して健康状態の改善が図られます（4-1・4-2）。

さらに、就労意欲のある利用者に対しては、ホームレス自立支援施設の利用を促すことをはじめとした就労支援が実施されます（2-4）。

このように、ホームレス緊急一時宿泊施設（シェルター）は、安心して寝泊りできる場所を提供することにとどまらず、ホームレスにとって様々な効果をもたらす重要な事業であると考えられますが、ある調査によると「他人に干渉されたくない」や「寝場所（外に）ある」といったことを理由に利用したがない人々も一定数いらっしゃることに注意が必要です。



(コラム) NPO 法人 Homedoor の取り組み

ここまで、ホームレス（元ホームレスを含む）を対象とした事業（プログラム）に想定されるアウトカムについて検討し、図表2のロジック・モデルを中心に説明をしてきましたが、このようなアウトカムを達成するためには効果的な事業戦略が欠かせません。ここでは、その効果的な事業戦略の例として「Homedoor」と「山友会」を紹介したいと思います。

Homedoor は、大阪府大阪市で活躍する NPO 法人で「ホームレス状態を生み出さないニホンに」を理念に掲げ、次の6つのチャレンジを通じて、ホームレスの人々の路上脱出のサポートを行っています。

(チャレンジ1：届ける)

ホームレスの人々に「困ったときに手を差し伸べてくれる存在がある」ことを知らせるために、巡回活動や店舗等へのポスター・バナー広告の設置を行っています。

(チャレンジ2：選択肢を広げる)

Homedoor では、まずは相談に来られた方の気持ちに寄り添い、相談支援を進めていき、既存の社会資源のみにとらわれず、新たな資源（選択肢）をつくりながら、相談者の生活に伴走した支援を行っています。

(チャレンジ3：暮らしを支える)

誰もががはっと安堵し、健康に生活できるよう、①生活応援施設「アドセンター」（自由に来所し、食事や洗濯、団らんができるなど）、②無料で食べられる「&食堂」（温かく栄養のある食事をとれる）、③健康づくりを応援する「&ヘルス」（健康測定プログラムや健康相談会を実施）の活動を行っています。

(チャレンジ4：働くを支える)

「働くことができる身体と意欲があれば、家がなくても働くことを阻害されなくて済む社会」を目指し、①就労機会の提供、②一般就労への橋渡し、③金銭管理サポートなどを行っています。

(チャレンジ5：再出発に寄り添う)

ホームレス状態脱出の道のりの中では、相談できる人や場所を見つけたりといった「何かあったときに、再び路上に出る前に何とかする」状態にすることが必要という考えのもと、①居宅生活移行サポート、②一般就労移行サポート、③卒業生サポーターなどの取り組みを行っています。

(チャレンジ6：伝える)

ホームレス問題の背景には、（ホームレスの人は）怠けている、昼間から酒を飲んでいるという「偏見」、自業自得だ、努力しないからあんなのだという「自己責任論」、（ホームレスの人には）係りたくない、見て見ぬふりをしておこうという「他人ごととしてしまう意識」などがあるとの考えのもと、講演やワークショップを通して、様々な人たちの理解を得ていくための活動を行っています。

以上のように、ごく簡単にですが Homedoor の活動を紹介させて頂きました。これらの活動の詳細は是非ホームページ等で直接ご確認ください (<https://www.homedoor.org/>)。

(コラム) NPO 法人山友会の取り組み

NPO 法人山友会は東京の通称「山谷地区」においてホームレス支援を行っている NPO 法人です。山友会は以下の 8 つの事業を通して「路上生活を送らざるを得ない人々や、苦しい生活を送らざるを得ない人々が独りではないと感じて笑顔を取り戻すこと」というミッションに取り組んでいます。

1. 無料診療事業

ボランティアの医療スタッフがおもに路上生活者の方や、健康保険証を持たない方に対して無料診療事業を行っています。専門的な治療が必要な人に対しては、相談事業の相談員と連携を行います。

2. 生活相談・支援事業

山友会では①生活相談、②地域生活サポート、③居場所機能、を行います。地域生活サポートは、約 250 名のホームレス（元ホームレスを含む）の方へのアウトリーチ支援を実施しています。

3. 炊き出し・アウトリーチ

山友会に来ることのできない多くの人々、あるいはこれらの活動を知らない方々に対して食事の提供と同時に、活動を知ってもらうための炊き出しとアウトリーチを実施しています。

4. 食堂

訪れた人が無償で食事ができるようにしています。食堂は食事ができるだけでなく、そこに行けば誰かと関われる関係の構築を重視しています。

5. ケア付き宿泊施設

山友会の宿泊所は高齢や障害などによって地域生活が困難な単身の男性を対象にしており、24 時間スタッフによる見守りや生活サポートを受けられる場所となっています。

6. 居場所・生きがいづくりプロジェクト

地域で暮らす元ホームレスの方を対象に、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と自身の生きがいとなる社会的役割を手にすることができるような活動を自分たち自身で考え実行しています。

7. 無縁仏になってしまうホームレスの人々が入れるお墓を建てたい！プロジェクト

お墓を建てることで、生前親しかった者とのつながりを大切にし、人としての尊厳を保ちながら旅立つことのできる希望を届けることを目的として、寺院と協力して行っています。

8. 山友会アートプロジェクト

山友会では、写真やアートを通じて今の山谷を記録してもらう活動を行っています。様々な団体等と一緒に駅などで展示することで充実した毎日を送ってもらえるようにしています。

これらの活動を通して山友会は「ひとりひとりがその存在を認めあい、助け合うことのできるようなやさしさに満ちた、安心して暮らすことのできる社会」を目指しています。

以上のように、ごく簡単にですが NPO 法人山友会の活動を紹介させて頂きました。これらの活動の詳細は是非ホームページ等で直接ご確認ください (<http://sanyukai.or.jp/>)。

III. アウトカムを測定する方法を決める

社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル 「Step 4: 指標・測定方法を考える」 参照

「II. ロジック・モデルをつくる」で挙げたアウトカムを測定するためには、一般的には図表3・4に示すような指標、測定方法が有用です。

まず、図表3には、支援対象者であるホームレス（元ホームレスを含む）の変化をみる指標を掲載しました。これらは、ホームレス（元ホームレスを含む）一人ひとりの変化を確認する際に有用です。

図表3：アウトカム指標と測定方法の一覧（支援対象者個人の変化をみる指標）

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 掲載ページ
ホームレス （元ホームレスを含む）	直接 アウトカム	1. 住居の確保	1-1. 安心して寝泊りできる場所の確保	現在の生活場所	p15
			1-2. 住みやすい住居の確保 （家賃などの条件を含む）	住まいの住み心地	p16
		2. サービスへの アクセス	2-1. 経済的支援の確保（生活 保護や年金など）	利用している経済的支援 現在の経済状況	p17
			2-2. 必要に応じた医療の確保 （精神科を含む）	利用している医療的支援	p18
			2-3. 福祉による支援の確保 （障害・高齢福祉など）	利用している福祉による支援	p19
			2-4. 就労支援の確保（一般就 労・福祉的就労など）	利用している就労支援	p20
ホームレス （元ホームレスを含む）	直接 アウトカム	3. 教育・就労の機 会を得る	3-1. 学習意欲の維持・向上	学習意欲	p21
			3-2. 就労意欲の維持・向上	就労意欲	p22
			3-3. 学業の復帰	学業の復帰	p23
			3-4. 希望する仕事（働き方）で の就労	日中の過ごし方や仕事につ いて	p24
	中間 アウトカム	4. 心理的健康の維 持向上	4-1. 栄養状態の維持・改善	栄養状態	p25
			4-2. 身体的健康状態の維持・ 改善	身体的健康状態	p26
			4-3. 精神的健康状態の維持・ 改善	GHQ (The General Health Questionnaire)	p27
		5. 学校への適応・ 就労スキルの向上	5-1. 学校への適応	学校への適応	pp28-29
			5-2. 就労スキルの向上	働く場での行動・態度	pp30-33
		6. サービスの受け 入れとその定着	6-1. サービスや支援に関する 正しい知識を得る	サービス等の内容	p34
			6-2. サービスの受け入れと利 用の継続・定着	今受けているサービスにつ いて	p35

図表 3：アウトカム指標と測定方法の一覧（支援対象者個人の変化をみる指標）（つづき）

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 掲載ページ
ホームレス (元ホームレスを含む)	中間 アウトカム	7. 親密な人間関係の形成	7-1. 地域の中で個別のかかわりを持つ人ができる	友人や知人、近隣の人などとの関わり	pp36-37
			7-2. 家族等との関係の再構築	家族・親戚等との関係	p38
	最終 アウトカム	8. 生活満足感・自己肯定感	8-1. 生活満足度の向上	WHO/QOL尺度短縮版(QOL26)	p39
			8-2. 自己肯定感の向上	ローゼンバーグ自尊感情尺度	p40
		9. 本人が望む場所での自立した日常生活			p41
地域 (地域住民)	中間 アウトカム	10. 地域住民の関心・交流の向上	10-1. ホームレス問題に関する知識・関心の向上	ホームレスに対するステレオタイプ	pp42-43
			10-2. ホームレスとの適切な交流の増加	ホームレスとの接触経験	p44
		11. 地域における支援者の増加	11-1. ボランティアの増加	ボランティアに取り組んだ経験	p45
			11-2. NPOなど支援組織の増加	NPO法人に関わった経験	p46

次に、図表 4 には地域の変化をみる指標を掲載しました。これらは、行政が担当する地域がどのように変わったのかなど、地域単位での変化を確認する際に有用です。

図表 4：アウトカム指標と測定方法の一覧（地域の変化をみる指標）

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 掲載ページ
ホームレス (元ホームレスを含む)	直接 アウトカム	1. 住居の確保	1-1. 安心して寝泊りできる場所の確保	起居場所ごとの人数	p47
			1-2. 住みやすい住居の確保(家賃などの条件を含む)	住まいの種類、および満足度	p48
		2. サービスへのアクセス	2-1. 経済的支援の確保(生活保護や年金など)	①利用している経済的支援、②経済的状況	p49
			2-2. 必要に応じた医療の確保(精神科を含む)	医療機関を利用している者の人数	p50
			2-3. 福祉による支援の確保(障害・高齢福祉など)	福祉サービスを利用している者の人数	p51
			2-4. 就労支援の確保(一般就労・福祉的就労など)	就労支援を利用している者の人数	p52

図表4：アウトカム指標と測定方法の一覧（地域の変化をみる指標）（つづき）

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 掲載ページ
ホームレス (元ホームレスを含む)	直接 アウトカム	3. 教育・就労の機会を得る	3-1. 学習意欲の維持・向上	学校に通うことを希望する者の人数	p53
			3-2. 就労意欲の維持・向上	働くことを希望する者の人数	p54
			3-3. 学業の復帰	学業に復帰した者の人数	p55
			3-4. 希望する仕事(働き方)での就労	就労定着者数	p56
	中間 アウトカム	4. 心理的健康の維持向上	4-1. 栄養状態の維持・改善	BMI(肥満指数)ごとの人数	p57
			4-2. 身体的健康状態の維持・改善	健康な者、不健康な者、不調を訴える者の人数	p58
			4-3. 精神的健康状態の維持・改善	精神的に健康、不健康、訴えのある者の人数	p59
		5. 学校への適応・就労スキルの向上	5-1. 学校への適応	学校に満足している者、転校を希望する者の人数	p60
			5-2. 就労スキルの向上	求められるスキルを有している者の人数	p61
		6. サービスの受け入れとその定着	6-1. サービスや支援に関する正しい知識を得る	サービス等を知っている者の人数	p62
			6-2. サービスの受け入れと利用の継続・定着	サービスの利用状況	p63
		7. 親密な人間関係の形成	7-1. 地域の中で個別のかかわりを持つ人ができる	話・相談、趣味・娯楽ができる人がいる者の人数	p64
			7-2. 家族等との関係の再構築	家族と連絡をとっている者の人数	p65
	最終 アウトカム	8. 生活満足感・自己肯定感	8-1. 生活満足度の向上	生活に満足している者の人数	p66
			8-2. 自己肯定感の向上	自分自身に満足している者の人数	p67
		9. 本人が望む場所での自立した日常生活		望む場所で生活している者、困りごとのない者の人数	p68
地域 (地域住民)	中間 アウトカム	10. 地域住民の関心・交流の向上	10-1. ホームレス問題に関する知識・関心の向上	ホームレス問題に関心のある人・知識のある人の人数	p69
			10-2. ホームレスとの適切な交流の増加	ホームレスと交流をもったことのある者の人数	p70
		11. 地域における支援者の増加	11-1. ボランティアの増加	ボランティア活動に参加した者の人数	p71
			11-2. NPOなど支援組織の増加	ホームレスを支援するNPO法人等の数	p72

なお、例示されている指標や測定方法は特定の価値判断を暗黙のうちに前提としている場合があります。評価を実施する目的を明確化した上で、以降に例示されている指標や測定方法、具体的な質問項目を確認し、自団体が考える価値、アウトカムを測定する上で適切かどうかを判断してください。

アウトカム 1-2. 住みやすい住居の確保（家賃などの条件含む）

指標 住まいの住み心地

測定方法 アンケート

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』

問 1. 現在のお住まいでの居住年数はどのくらいですか。

年	か月
---	----

問 2. 現在のお住まいの地区年数はおおよそどのくらいですか。

- ①10 年未満、②10～20 年くらい、③20～30 年くらい、④30～40 年くらい、⑤40 年以上、
⑥わからない

問 3. 現在のお住まいに、トイレやお風呂はついていますか。

- ・トイレ（①自分の部屋についている、②共同である）
- ・お風呂（①自分の部屋についている、②共同である、③ない）

問 4. 現在の家の住み心地はいかがですか。

- ①よい、②悪い、③どちらともいえない

問 5. 現在住んでいる地域（町内など）について、下記の選択肢それぞれを（①とてもそう思う、②そう思う、③あまり思わない、④そう思わない）の 4 件法で回答してください。

- ① 今住んでいる地域が好きだ
- ② 今後もこの地域にずっと住み続けたい
- ③ この地域は何かと不便だ
- ④ この地域は近所づきあいが面倒だ
- ⑤ この地域のために何か役に立ちたい
- ⑥ この地域に馴染んでいる、馴染めそうだ

その他参考測定方法

アウトカム 2-1. 経済的支援の確保（生活保護や年金など）

指標 ①利用している経済的支援（問 1）

②現在の経済的状況（問 2、問 3）

測定方法 アンケート

出所：効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会（2012）『利用者自記式評価表（福祉サービス関連自記式 QOL 尺度） <<http://ppcfe.com/21/>>』（問 2、問 3）

問 1. 経済的支援について、現在利用をしているものを選択してください。

- ① 生活保護制度
- ② 老齢年金・障害年金
- ③ 各種給付金（住居確保給付金など）
- ④ 各種貸付（生活福祉資金貸付制度など）
- ⑤ その他（ ）

問 2. 収入や自由に使えるお金など、いまの経済的な状態についてあてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① 一般とくらべてめぐまれた生活をしている
- ② ぜいたくではないが、必要なものはまとまったものでも買える
- ③ 食べる方の心配はないがまとまったものには手がとどかない
- ④ 食べるのに精一杯でぜんぜん他のものには手がとどかない
- ⑤ やっとその日を送っているがこのままでは暮らしていけない

問 3. 自由に使えるお金の額に関して、どのくらい満足していますか、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① とても満足
- ② だいたい満足
- ③ どちらでもない
- ④ やや不満
- ⑤ とても不満

その他参考測定方法

アウトカム 2-2. 必要に応じた医療の確保（精神科含む）

指標 利用している医療的支援

測定方法 アンケート

出所：

医療的支援について、現在利用をしているものを選択してください。

①病院（内科・外科など、診療所含む）

②精神科病院（精神科診療所、デイケア含む）

③訪問看護

④その他（ ）

その他参考測定方法

アウトカム 2-3. 福祉による支援の確保（障害・高齢福祉など）

指標 利用している福祉による支援

測定方法 アンケート

出所：生活困窮者自立支援法、生活保護法、障害者総合支援法、介護保険法

福祉による支援について、現在利用をしているものを選択してください。

①生活困窮者自立支援法関連の支援

- ・自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、家計相談支援事業、就労訓練事業、生活困窮世帯の子どもの学習支援、一時生活支援事業

②生活保護法関連の支援

- ・生活扶助（救護施設、更正施設）、住宅扶助（宿所提供施設）、教育扶助、医療扶助（医療保護施設）、介護扶助、出産扶助、生業扶助（授産施設）、葬祭扶助

③障害者総合支援法関連の支援

- ・居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、短期入所（ショートステイ）、療養介護、生活介護、施設入所支援、自立生活援助、共同生活援助（グループホーム）、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援など

④介護保険法関連の支援

- ・訪問介護（ホームヘルプ）、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション、短期入所生活介護（ショートステイ）、各種介護予防サービスなど

⑤その他、福祉による支援

その他参考測定方法

アウトカム 2-4. 就労支援の確保（一般就労・福祉的就労など）

指標 利用している就労支援

測定方法 アンケート

出所：生活困窮者自立支援法、生活保護法、障害者総合支援法

就労支援について、現在利用をしているものを選択してください。

①生活困窮者自立支援法関連の支援

・ 就労準備支援事業、就労訓練事業

②生活保護法関連の支援

・ 生業扶助（授産施設）

③障害者総合支援法関連の支援

・ 就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、就労定着支援

⑤その他、民間の就労支援など

その他参考測定方法

アウトカム 3-1. 学習意欲の維持・向上

指標 学習意欲

測定方法 アンケート

出所：

①～⑤の選択肢のなかから、あてはまるもの1つを回答してください。

問 1. 学習意欲がある

- ① 全くあてはまらない
- ② あまりあてはまらない
- ③ どちらとも言えない
- ④ ややあてはまる
- ⑤ 非常にあてはまる

その他参考測定方法

アウトカム 3-2. 就労意欲の維持・向上

指標 就労意欲

測定方法 アンケート

出所：厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン作成事業」委員会（2016）『就労準備支援事業評価ガイドライン』

①～⑤の選択肢のなかから、あてはまるもの1つを回答してください。

問 1. 就労意欲がある

- ① 全くあてはまらない
- ② あまりあてはまらない
- ③ どちらとも言えない
- ④ ややあてはまる
- ⑤ 非常にあてはまる

その他参考測定方法

アウトカム 3-3. 学業の復帰

指標 学業の復帰

測定方法 アンケート

出所：

学業の状況について、当てはまるものを選択してください。

(休学している場合)

①休学していた学業に復帰した

②休学していた学業とは、また別の学校に入学した

③その他 ()

(退学、あるいはそもそも学校に在学していない場合)

①新たに学校に入学した

②その他 ()

その他参考測定方法

アウトカム 3-4. 希望する仕事（働き方）での就労

指標 日中の過ごし方や仕事について

測定方法 アンケート

出所：効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会（2012）『利用者自記式評価表（福祉サービス関連自記式 QOL 尺度）＜<http://ppcfe.com/21/>>』

問 1. いまの暮らしの中で、あなたがお住まいの住居（施設）から日中に出かけて行って、人との付き合いのできる場所がありますか。仕事の職場を含めて、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① 安心して過ごせるところがある
- ② まあまあ安心して過ごせるところがある
- ③ どちらでもない
- ④ あまり安心して過ごせるところはない
- ⑤ 安心して過ごせるところはない

問 2. 日中の過ごし方（職場を含めて）について、あなたはどのくらい満足していますか。あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① とても満足
- ② だいたい満足
- ③ どちらでもない
- ④ やや不満
- ⑤ とても不満

問 3. いまのお仕事・社会参加について、あなたはどのようにされていますか。あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① 給料や工賃をもらいながら働いている（作業所・授産施設などでの作業や家業も含む）
- ② 家事をしている
- ③ ボランティア活動を定期的に行っている
- ④ とくに仕事はしていない

その他参考測定方法

アウトカム 4-1. 栄養状態の維持・改善

指標 栄養状態

測定方法 アンケート

出所：簡易栄養状態評価表（Mini Nutritional Assessment）

簡易栄養状態評価表（Mini Nutritional Assessment）は、1999 年に提唱された問診表を主体とする簡便なスクリーニング法。

6 個の予診故目（14 ポイント）と 12 個の問診項目（16 ポイント）からなり、予診の段階で 12 ポイント以上であれば栄養障害なしと判断し、それ以上の詳細な問診には進まない。11 ポイント以下の場合には、栄養障害の疑いありとしてさらに詳細な 12 項目の問診を行う。

合計 30 ポイント中、23.5 ポイント以上あれば現時点での栄養障害の可能性はないものとして栄養療法の対象とはしない。17～23.5 ポイントは、栄養障害の危険ありとして Full Assessment を行うか、厳重な経過観察を行う必要がある。17 ポイント未満はすでに栄養障害ありと診断され、直ちに栄養療法が必要となる。

説明文章引用元（<https://www.nutri.co.jp/nutrition/keywords/ch1-5/keyword6/>）

簡易栄養状態評価表はこちらからダウンロード可。

https://www.mna-elderly.com/forms/MNA_japanese.pdf

その他参考測定方法

アウトカム 4-2. 身体的健康状態の維持・改善

指標 身体的健康状態

測定方法 アンケート

出所：ホームレスの実態に関する全国調査

路上（野宿）生活をしている間（長い方はここ 1 年以内で）次のような症状がありましたか。

1. めまい（①あった・②なかった）
 2. しびれ・麻痺（①あった・②なかった）
 3. 咳が続く（①あった・②なかった）
 4. 微熱が続く（①あった・②なかった）
 5. ひどい下痢が続いた・激しい腹痛（①あった・②なかった）
 6. 皮膚のかゆみや発疹（①あった・②なかった）
 7. 目やにが出る・目がかすむ（①あった・②なかった）
 8. 食欲不振（①あった・②なかった）
 9. 急激に痩せた（①あった・②なかった）
 10. ひどくだるい（①あった・②なかった）
 11. 耳鳴りがひどい（①あった・②なかった）
 12. 吐き気・嘔吐・胃の痛み（①あった・②なかった）
 13. むくみ（①あった・②なかった）
 14. 頭痛（①あった・②なかった）
 15. 腰痛（①あった・②なかった）
 16. 歯が痛い（①あった・②なかった）
 17. 体の節々が痛む（①あった・②なかった）
 18. よく眠れない日が続いた（①あった・②なかった）
 19. 2 週間以上毎日のように落ち込んでいた時期があった（①あった・②なかった）
 20. その他（）
-

その他参考測定方法

アウトカム 4-3. 精神的健康状態の維持・改善（依存症含む）

指標 GHQ 精神健康調査（The General Health Questionnaire）

測定方法 アンケート

出所：GHQ 精神健康調査（The General Health Questionnaire）

英国の Maudsley 精神医学研究所の David Goldberg 博士によって開発された質問紙法による検査で、主として神経症者の症状把握、評価および発見に有効なスクリーニング・テスト。

<特徴>

- ・（日本語版は）WHO 世界保健機関版に順序して作られています。
- ・質問内容が日常的、身近なものに限られているので、人種、宗教、文化、社会が異なっても違和感をもたれず、国際比較研究も可能です。
- ・診療所、病院、企業等で容易に、短時間で実施できます。
- ・60 問の他に 30 問と 28 問と 12 問の短縮版が用意されており、目的に合わせて利用できます。

日本語版 GHQ60	神経症の発見、症状把握に有効なスクリーニング・テスト。原版は各国で幅広く活用されています。
日本語版 GHQ30	一般的疾患傾向、身体的症状、睡眠障害、社会的活動障害、不安と気分変調、希死念慮とうつ傾向がわかります。
日本語版 GHQ28	身体的症状、不安と不眠、社会的活動障害、うつ傾向がわかります。
日本語版 GHQ12	時間をかけられない調査研究など、より簡便な実施を求めて作られた短縮版です。少ない項目数ながら高い妥当性と信頼性が得られています。

説明文書引用元（<https://www.chibatc.co.jp/cgi/web/index.cgi?c=catalogue-zoom&pk=149>）

※ 各種、心理検査などを販売している業者から購入することが可能です。

その他参考測定方法

アウトカム 5-1. 学校への適応

指標 学校への適応

測定方法 アンケート

出所：石田靖彦（2009）「学校適応感尺度の作成と信頼性、妥当性の検討～生徒評定と教師評定を用いた他特性―他方法相関行列からの検討～」『愛知教育大学教育総合センター紀要』12，287-292

以下のそれぞれの項目について、①まったくあてはまらない～⑤とてもあてはまる、の5段階で回答してください。

（友人関係）

- ①この学校には、よい友だちがたくさんいると思う
- ②この学校の友だちとの関係に不満がある
- ③この学校の友だちといっしょにいると楽しい
- ④この学校の友だちとは何でも話すことができると思う

（学習関係）

- ⑤この学校の授業を受けるのは楽しい
- ⑥この学校の授業はつまらないと思う
- ⑦この学校の授業ではやる気がわいてくる
- ⑧この学校ではいっしょうけんめい授業をうけたいと思う

（学校全体）

- ⑨この学校の生徒であることをほこりに思う
- ⑩この学校の生徒であることがうれしい
- ⑪この学校の生徒であることを、強く意識している
- ⑫この学校を離れるとしたら、とてもつらいと思う

（教師関係）

- ⑬この学校の先生に対して不満がある
- ⑭この学校の先生には安心して何でも相談できると思う
- ⑮この学校では先生と気軽に話ができると思う
- ⑯この学校の先生に対して親しみをを感じる

※ 質問項目、②、⑥、⑬については反転項目（①まったくあてはまらない、の回答に近いほどに望ましい状態）。

その他参考測定方法

アウトカム 5-2. 就労スキルの向上

指標 働く場での行動・態度

測定方法 アンケート

出所：厚生労働省（2006）『就労移行支援のためのチェックリスト』

問 1. 作業意欲について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①作業意欲が強い、②作業意欲はおおむねある、
③作業意欲はあまりない、④作業意欲はほとんどない、⑤作業意欲はない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 分担した仕事を上手にやり遂げようとしない
- b. 分担した仕事を最後までやり遂げようとしない
- c. 分担した責任を果たすことの重要性がわかっていない
- d. 自分の作業をあきらめている
- e. 責任が理解できていない

問 2. 就労能力の自覚について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①自分の就労能力がわかっている、②就労能力がだいたいわかっている
③就労能力があまりわかっていない、④就労能力がほとんどわかっていない、
⑤就労能力がわかっていない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 自分に適する作業内容がわかっていない
- b. 自分の作業量のレベルがわかっていない
- c. 自分に合う 1 日の勤務時間がわかっていない
- d. 自分に合う週の勤務日数がわかっていない

問 3. 働く場のルールを理解について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①働く場のルールを理解している、②働く場のルールをだいたい理解している
③働く場のルールをあまり理解していない、④働く場のルールをほとんど理解していない
⑤職場のルールを理解していない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 就業規則を理解していない

- b. 仕事の命令系統を理解していない
- c. 変則勤務などがあることを理解していない
- d. 勤務時間内に勝手な行動をする

問 4. 仕事の報告について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①仕事の報告ができる、②仕事の報告がだいたいできる
- ③仕事の報告があまりできない、④仕事の報告がほとんどできない、⑤仕事の報告ができない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 次の作業の指示をもらいに来ない
- b. 仕事が終わっても報告をしない
- c. 仕事が終わると勝手に持ち場を離れる
- d. 作業内容が分からなくても質問しない
- e. 必要以上に報告する

問 5. 欠勤等の連絡について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①欠勤、遅刻などを連絡できる、②欠勤、遅刻などをだいたい連絡できる
- ③欠勤、遅刻などをあまり連絡できない、④欠勤、遅刻などをほとんど連絡できない
- ⑤欠勤、遅刻などを連絡できない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 就業前に連絡できない
- b. 家族などに連絡を頼むことができない
- c. 連絡することを思いつかない
- d. 電話がかけられない

問 6. 出勤状況について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①欠勤・遅刻・早退がない、②欠勤・遅刻・早退が月に 1～2 度ある
- ③欠勤・遅刻・早退が 1 週間に 1 度ある、④欠勤・遅刻・早退が週に 2～3 度ある
- ⑤欠勤・遅刻・早退がほとんど毎日ある

問 7. 作業に取り組む態度について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①積極的に作業に取り組む、②言われたとおりに作業に取り組む、
- ③指示どおりの作業ができない、④作業に集中できない、⑤指示に従わない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 仕事中に騒ぐ
- b. 勝手に動き回る
- c. 作業の準備をしない
- d. 後片付けをしない
- e. 作業への取り掛かりが遅い

問 8. 持続力について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① 1 日 7～8 時間勤務ができています、② 1 日 6 時間勤務ができています
- ③ 1 日 4 時間勤務ができています、④ 1 日 3 時間勤務ができています、⑤ 1 日 3 時間勤務が難しい

問 9. 作業速度について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①期待されている速度である、②期待されている速度の 8～9 割である
- ③期待されている速度の 6～7 割である、④期待されている速度の 5 割程度である
- ⑤期待されている速度の 5 割以下である

問 10. 作業能率について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①慣れるに従い、作業能率は著しく上昇する、②慣れるに従い、作業能率の向上が見られる
- ③作業能率が向上しない、④作業能率にムラがある、⑤作業能率が低下する

問 11. 指示内容の理解について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①指示内容を理解できる、②指示内容をだいたい理解できる
- ③指示内容をあまり理解できない、④指示内容をほとんど理解できない、⑤指示内容を理解できない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 指示の細かい点について言葉で理解できない
- b. 自分の考えと違う指示は受け入れない
- c. 時間が経つと忘れてしまう
- d. 何度も繰り返さないと理解できない
- e. 一度に複数の指示を出されると理解できない

問 12. 作業の正確性について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ①ミスなくできる、②だいたいミスなくできる

③ときどきミスがある、④ミスがあることが多い、⑤ほとんどミスがある

問 13. 危険への対処について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

①危険に対処できる、②だいたい危険に対処できる

③あまり危険に対処できない、④ほとんど危険に対処できない、⑤危険に対処できない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 危険な状況が判断できない
- b. 危険の表示や合図が分からない
- c. 危険について知っているが正しい手順で行わない
- d. 禁止事項を理解できない
- e. 禁止事項を守れない

問 14. 作業環境の変化への対応について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

①作業環境の変化に対応できる、②だいたい作業環境の変化に対応できる

③作業環境の変化にあまり対応できない、④作業環境の変化にほとんど対応できない

⑤作業環境の変化に対応できない

※ ③～⑤に回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける

- a. 作業手順の変化に対応できない
- b. 作業の種類の変更に対応できない
- c. 上司の交代に対応できない

その他参考測定方法

・厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン作成事業」委員会（2016）『就労準備支援事業評価ガイドライン』

アウトカム 6-1. サービスや支援に関する正しい知識を得る

指標 サービス等の内容

測定方法 アンケート

出所：生活困窮者自立支援法、生活保護法、障害者総合支援法、介護保険法など

以下のそれぞれの項目について、①内容を良く知っている、②言葉は知っている、③言葉も知らない、のいずれかで回答してください。

① 経済的支援

- ・老齢年金、障害年金、各種給付（住宅確保給付金など）、各種貸付（生活福祉資金貸付制度など）、など

② 医療的支援

- ・病院（内科、外科、診療所など）、精神科病院（精神科診療所、デイケアなど）、訪問看護、など

③ 福祉による支援

- ・生活困窮者自立支援法関連の支援（自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、家計相談支援事業、就労訓練事業、生活困窮世帯の子どもの学習支援、一時生活支援事業）
- ・生活保護法関連の支援（生活扶助（救護施設、更正施設）、住宅扶助（宿所提供施設）、教育扶助、医療扶助（医療保護施設）、介護扶助、出産扶助、生業扶助（授産施設）、葬祭扶助）
- ・障害者総合支援法関連の支援（居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、短期入所（ショートステイ）、療養介護、生活介護、施設入所支援、自立生活援助、共同生活援助（グループホーム）、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援など）
- ・介護保険法関連の支援（訪問介護（ホームヘルプ）、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション、短期入所生活介護（ショートステイ）、各種介護予防サービスなど）

④ 就労支援

- ・生活困窮者自立支援法関連の支援（就労準備支援事業、就労訓練事業）
- ・生活保護法関連の支援（生業扶助（授産施設））
- ・障害者総合支援法関連の支援（就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援など）

⑤ その他（ ）

その他参考測定方法

アウトカム 6-2. サービスの受け入れと利用の継続・定着

指標 今受けているサービスについて（問 1）

測定方法 アンケート

出所：効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会（2012）『利用者自記式評価表（福祉サービス関連自記式 QOL 尺度）＜<http://ppcfe.com/21/>>』（問 1）

問 1. あなたがいま受けているサービス（支援）についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について

①とてもそう思う、②ややそう思う、③どちらでもない、④あまりそう思わない、⑤全くそう思わない、のいずれかで回答してください。

- ① 私は、いま受けているサービスに満足している
- ② いま提供されているサービスは、私が求めているものを満たしている
- ③ もしあなたがふたたび援助を求めるとしたら、このサービスを利用したいと思う

問 2. あなたがいま受けているサービスについて、どのように思っているか、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① このまま利用を続けたい
- ② どちらともいえない
- ③ すぐにでも利用をやめたい

その他参考測定方法

※ 生活保護や福祉、医療サービスの利用について、制度やサービスに対する誤解や偏見があるために、これらの利用を拒否する人々もいらっしゃいます。制度やサービスに対する誤解・偏見の状況を確認するために、次の文献（文献に掲載してある尺度・項目）は有用であると考えられます。

- ・ 吉住隆弘（2019）「生活保護受給者への偏見に関連する心理学的要因の検討」『パーソナリティ研究』27(3), 249-251
- ・ 小池春妙・伊藤義美（2012）「メンタルヘルス・リテラシーに関する情報提供が精神科受診意図に与える影響」『カウンセリング研究』45(3), 155-164

アウトカム 7-1. 地域の中で個別的就業を持つことができる

指標 友人や知人、近隣の人などとの関わり

測定方法 アンケート

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』を一部加筆・修正

問 1-1. 普段、話をしたり、ちょっとした相談をする人はいますか。

①はい、②いいえ

↓

※「①はい」と回答した人のみ。

問 1-2. その人はどのような人ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ① 家族や親族
- ② 仕事の仲間（以前の職場を含む）
- ③ 友人や知人
- ④ 大家さん・アパート管理会社・不動産会社
- ⑤ 民営委員や近所の住民
- ⑥ 福祉事務所のケースワーカー
- ⑦ 支援団体職員
- ⑧ ヘルパー・訪問看護・ケアマネージャー等
- ⑨ 地域包括支援センターの職員
- ⑩ その他（ ）

問 2-1. 趣味・娯楽を一緒にする人はいますか。

①はい、②いいえ

↓

※「①はい」と回答した人のみ。

問 2-2. その人はどのような人ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ① 家族や親族
- ② 仕事の仲間（以前の職場を含む）
- ③ 友人や知人
- ④ 近所の住民
- ⑤ その他（ ）

アウトカム 7-2. 家族等との関係の再構築

指標 家族・親戚等との関係

測定方法 アンケート

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』を一部加筆・修正

問 1-1. この 1 年間で、家族・親戚等と連絡をとることはありましたか。

①ある、②ない

↓

※「①ある」と回答した人のみ。

問 1-2. どのくらいの頻度で連絡しますか。

(週・月・年)

回

その他参考測定方法

・ 神埼光子・大滝千文・前田一枝・ほか（2012）「FFS（家族機能尺度）日本語版の開発～養育期の家族を対象とした信頼性と妥当性の検討」『日本看護科学会誌』32(1), 50-58

アウトカム 8-1. 生活満足度の向上

指標 WHO/QOL 尺度短縮版（QOL26）

測定方法 アンケート

出所：WHO Quality of Life 26

対象者の主観的幸福感、生活の質を測定します。

尺度は、①身体的領域、②心理的領域、③社会的関係、④環境領域の4領域のQOLを問う24項目と、QOL全体を問う2項目の全26項目から構成されています。

（4つの領域の概要）

① 身体的領域

・日常生活、医薬品と医療への依存、活力と疲労、移動能力、痛みと不快、睡眠と休養、仕事の能力

② 心理的領域

・ボディ・イメージ、否定的感情、肯定的感情、自己評価、精神性・宗教・信念、思考・学習・記憶・集中力

③ 社会的関係

・人間関係、社会的支え、性的活動

④ 環境領域

・金銭関係、自由・安全と治安、健康と社会的ケア：利用のしやすさと質、居住環境、新しい情報・技術の獲得の機会、余暇活動への参加と機会、生活圏の県境、交通手段

※各種、心理検査などを販売している業者から購入することが可能です。

その他参考測定方法

・田原康玄・植木章三・矢野宏光・ほか（2000）「日本版LSIAの因子構造モデルの検討」『東京保健学会誌』3(1), 33-37

アウトカム 8-2. 自己肯定感の向上

指標 ローゼンバーグ自尊感情尺度

測定方法 アンケート

出所：

Rosenberg, M. (1965) Society and the adolescent self-image. Princeton, NJ: Princeton University Press:

http://fetzer.org/sites/default/files/images/stories/pdf/selfmeasures/Self_Measures_for_Self-Esteem_ROSENBERG_SELF-ESTEEM.pdf

内田 智宏, 上埜 高志 (2010) 「Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討：Mimura & Griffiths 訳の日本語版を用いて」 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 第 58 集・第 2 号.

以下、それぞれの項目について、①強くそう思う、②そう思う、③そう思わない、④強くそう思わない、のいずれかで回答してください。

- ① 私は、自分自身にだいたい満足している
- ② 時々、自分はまったくダメだと思うことがある
- ③ 私には、けっこう長所があると感じている
- ④ 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる
- ⑤ 私には誇れるものが大してないと感じる
- ⑥ 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある
- ⑦ 自分は少なくとも他人と同じくらい価値のある人間だと感じる
- ⑧ 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う
- ⑨ よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう
- ⑩ 私は、自分のことを前向きに考えている

※ 質問項目②、⑤、⑥、⑧、⑨については反転項目（④強くそう思わない、の回答に近いほどに望ましい状態）。

その他参考測定方法

アウトカム 9. 本人が望む場所での自立した日常生活

指標

測定方法 インタビュー

出所：

次のことを口頭で質問し、率直な想いを語ってもらう。

- ・あなたは、現在、ご自身の望む場所で、自分のことは自分で決定し、満足のいく日常生活を送っていますか。

その他参考測定方法

- ・鈴木征男・崎原盛造（2003）「精神的自立性尺度の作成～その構成概念の妥当性と信頼性の検討」『民族衛生』69(2)，47-56
- ・高坂康雅・戸田弘二（2006）「青年期における心理的自立（Ⅱ）心理的自立尺度の作成」『北海道教育大学紀要教育科学編』56(2)，17-30

アウトカム 10-1. ホームレス問題に関する知識・関心の向上

指標 ホームレスに対するステレオタイプ（問 1）

ホームレス問題に関する関心

測定方法 アンケート

出所：高橋尚也・土肥彩香（2018）「ホームレスに対するステレオタイプが認知者のリスク認知に与える影響」『立正大学心理学研究年報』9, 35-41（問 1）

問 1. ホームレスへのイメージに関するそれぞれの項目について、①そう思わない、②あまりそう思わない、③どちらともいえない、④ややそう思う、⑤そう思う、のいずれかで回答してください。

<スキルと動機の欠如>

- ①（ホームレスは）がんばらない
- ②（ホームレスは）努力をしない
- ③（ホームレスは）やる気がない
- ④（ホームレスは）甘えている
- ⑤（ホームレスは）意欲がない
- ⑥（ホームレスは）働く意志がない
- ⑦（ホームレスは）問題解決能力がない
- ⑧（ホームレスは）コミュニケーション能力がない
- ⑨（ホームレスは）学習能力がない
- ⑩（ホームレスは）人生を捨てている
- ⑪（ホームレスは）常識がない
- ⑫（ホームレスは）プライドがない
- ⑬（ホームレスは）学力が低い
- ⑭（ホームレスは）街にいてだけで迷惑な人だ

<家族関係の欠如>

- ①（ホームレスは）家族が犯罪を犯した経験がある
- ②（ホームレスは）親が離婚した
- ③（ホームレスは）本人が犯罪を犯した経験がある
- ④（ホームレスは）親がいない
- ⑤（ホームレスは）親が会社で失敗した
- ⑥（ホームレスは）親が失業した

- ⑦（ホームレスは）兄弟姉妹がいない
- ⑧（ホームレスは）友達がいない

<嫌悪感>

- ①（ホームレスは）汚い
- ②（ホームレスは）不潔だ
- ③（ホームレスは）臭い
- ④（ホームレスは）不快だ
- ⑤（ホームレスは）暗い

<社会的孤立>

- ①（ホームレスは）本人が会社で失敗した
- ②（ホームレスは）本人が失業した
- ③（ホームレスは）独身である
- ④（ホームレスは）本人が離婚した

<恐怖感>

- ①（ホームレスは）暴力的だ
- ②（ホームレスは）攻撃的だ
- ③（ホームレスは）怖い

問 2. ホームレスに対する関心について、どのように思っているか、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- ① 常にホームレス問題に関心がある
- ② 時々ホームレス問題のことを考えたりする
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりホームレス問題について考えたことはない
- ⑤ これまでに 1 度もホームレス問題について考えたことはない

その他参考測定方法

アウトカム 10-2. ホームレスとの適切な交流の増加

指標 ホームレスとの接触経験

測定方法 アンケート

出所：高橋尚也・土肥彩香（2018）「ホームレスに対するステレオタイプが認知者のリスク認知に与える影響」『立正大学心理学研究年報』9, 35-41

以下のそれぞれの項目について、①該当、②非該当のいずれかで回答してください。

- ① ホームレスを見たことがある（該当・非該当）
- ② ホームレスについての話を聞いた経験がある（該当・非該当）
- ③ ホームレスと話をしたことがある（該当・非該当）
- ④ 誰かがホームレスを助けているところを見たことがある（該当・非該当）
- ⑤ ホームレスに何かを分け与えたことがある（該当・非該当）
- ⑥ ホームレスに助けを求められたことがある（該当・非該当）
- ⑦ ホームレスを助けたことがある（該当・非該当）
- ⑧ 以上の経験はない（該当・非該当）

その他参考測定方法

アウトカム 11-1. ボランティアの増加

指標 ボランティアに取り組んだ経験

測定方法 アンケート

出所：東村山市地域コミュニティ意識調査（問2の一部）

問1. あなたはホームレスの人々を支援するボランティア活動に参加をした経験はありますか。

- ① 何度もボランティアに参加したことがある
- ② 数は少ないがボランティアに参加したことがある
- ③ ボランティアに参加したことはない

問2. あなたはホームレスの人々を支援するボランティア活動に参加をしてみたいと思いますか。

- ① 大いにそう思う
- ② 少しはそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ 全くそう思わない

※ ④あまりそう思わない、⑤全くそう思わないと回答した場合、以下のうちあてはまるもの全てに○をつける。

- a. 参加する時間がないから
- b. 人間関係がわずらわしいから
- c. 体力や健康面で負担を感じるから
- d. 参加すると、活動を辞められなくなりそうだから
- e. 興味や関心のある活動がないから
- f. お金がかかりそうだから
- g. 一緒に活動する仲間がいないから
- h. 活動している団体の情報がないから
- i. 活動している団体が身近にないから
- j. その他（ ）
- k. 特に理由はない

その他参考測定方法

アウトカム 11-2. NPO など支援組織の増加

指標 NPO 法人に関わった経験

測定方法 アンケート

出所：

問 1. あなたはホームレスの人々を支援する NPO 法人の活動に参加をした経験はありますか。

- ① 現在、NPO 法人の活動に参加している
- ② 以前に NPO 法人の活動に参加をしていた
- ③ NPO 法人の活動には参加したことがない

問 2. あなたはホームレスの人々を支援する NPO 法人の活動に参加をしてみたいと思いますか。

- ① 大いにそう思う
- ② 少しはそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ 全くそう思わない

その他参考測定方法

アウトカム 1-1. 安心して寝泊まりできる場所の確保

指標 起居場所ごとの人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』を一部加筆・修正

調査地域について、以下のそれぞれを起居場所とするホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

- ①自宅（アパートなど） _____ 人
- ②親戚・友人宅 _____ 人
- ③病院 _____ 人
- ④福祉施設（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム。障害者施設等） _____ 人
- ⑤社員寮・住み込み _____ 人
- ⑥緊急一時宿泊施設（シェルター） _____ 人
- ⑦自立支援センター _____ 人
- ⑧都市公園、河川、駅舎、インターネットカフェ、サウナ、カプセルホテルなど _____ 人
- ⑨刑事施設（拘置所、刑務所、少年院など） _____ 人
- ⑩その他（ _____ ） _____ 人

その他参考測定方法

厚生労働省『ホームレスの実態に関する全国調査』

< https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00075.html >

アウトカム 1-2. 住みやすい住居の確保（家賃などの条件含む）

指標 住まいの種類、および満足度

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：厚生労働省『全国ひとり親世帯等調査』＜<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000188147.html>＞を加筆・修正

調査地域について、以下のそれぞれを住居とするホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

- ①持ち家（本人名義ではない） _____ 人
- ②持ち家（本人名義） _____ 人
- ③公営住宅 _____ 人
- ④公社・公団住宅 _____ 人
- ⑤賃貸住宅 _____ 人
- ⑥同居 _____ 人
- ⑦その他（ _____ ） _____ 人
- ⑧不詳 _____ 人

現在の住居について、満足しているホームレス（元ホームレス）の人数をカウントしてください。

_____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 2-1. 経済的支援の確保（生活保護や年金など）

指標 ①利用している経済的支援（問 1）

②経済的状況（問 2）

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

問 1. 調査地域について、下記の経済的支援を利用しているホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

①生活保護制度 _____ 人

②老齢年金・障害年金 _____ 人

③各種給付金（住居確保給付金など） _____ 人

④各種貸付（生活福祉資金貸付制度など） _____ 人

⑤その他（ _____ ） _____ 人

問 2. 調査地域において、自由に使えるお金の額に満足しているホームレス（元ホームレス）の人数をカウントしてください。

_____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 2-2. 必要に応じた医療の確保（精神科含む）

指標 医療機関を利用している者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 医療機関に通院している者の人数 _____ 人

問 2. 医療機関に入院している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 2-3. 福祉による支援の確保（障害・高齢福祉など）

指標 福祉サービスを利用している者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 福祉サービスを利用している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 2-4. 就労支援の確保（一般就労・福祉的就労など）

指標 就労支援を利用している者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 就労支援を利用している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 3-1. 学習意欲の維持・向上

指標 学校に通うことを希望する者の人数（通信教育なども含む）

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 学校に通いたいと希望する者の人数（通信教育なども含む） _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 3-2. 就労意欲の維持・向上

指標 働くことを希望する者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 働くことを希望する者の人数（福祉的就労を含む） _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 3-3. 学業の復帰

指標 学業に復帰した者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 休学している者の人数 _____ 人

問 2. 入学・復学した者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 3-4. 希望する仕事（働き方）での就労

指標 就労定着者数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 6 ヶ月以上就労を継続している者の人数 _____ 人

問 2. 1 年以上就労を継続している者の人数 _____ 人

問 3. 2 年以上就労を継続している者の人数 _____ 人

問 4. 3 年以上就労を継続している者の人数 _____ 人

問 5. 4 年以上就労を継続している者の人数 _____ 人

問 6. 5 年以上就労を継続している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 4-1. 栄養状態の維持・改善

指標 BMI（肥満指数）ごとの人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. BMI（体重÷（身長×身長））の状況

- ①低体重（18.5 未満）の人数 _____ 人
- ②普通体重（18.5～25 未満）の人数 _____ 人
- ③肥満（1 度）（25～30 未満）の人数 _____ 人
- ④肥満（2 度）（30～35 未満）の人数 _____ 人
- ⑤肥満（3 度）（35～40 未満）の人数 _____ 人
- ⑥肥満（4 度）（40 以上）の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 4-2. 身体的健康状態の維持・改善

指標 健康な者、不健康な者、不調を訴える者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関連機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 健康な者の人数 _____ 人

問 2. 体調を崩している者の人数 _____ 人

問 3. 不調を訴える者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 4-3. 精神的健康状態の維持・改善（依存症含む）

指標 精神的に健康な者、精神的に不健康な者、精神的な不調を訴える者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 精神的に健康な者の人数 _____ 人

問 2. 精神的に体調を崩している者の人数 _____ 人

問 3. 精神的な不調を訴える者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 5-1. 学校への適応

指標 学校に満足している者、転校等を希望する者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：ベネッセ教育総合研究所（2008）『第1回大学生の学習・生活実態調査報告書』 <
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>> を加筆・修正

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 学校に満足している者の人数 _____ 人

問 2. 他の学校や学部に入り直したいと訴えている者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 5-2. 就労スキルの向上

指標 求められるスキルを有している者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 従事している仕事（あるいは今後、就きたいと考える仕事）に必要なスキルを有している者の人数 _____人

その他参考測定方法

アウトカム 6-1. サービスや支援に関する正しい知識を得る

指標 サービス等を知っている者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 経済的支援について知っている者の人数 _____ 人

問 2. 医療的支援について知っている者の人数 _____ 人

問 3. 福祉による支援について知っている者の人数 _____ 人

問 4. 就労支援について知っている者の人数 _____ 人

問 5. その他の支援について知っている者の人数 _____ 人

※ 具体的な支援の内容については、本書の 34 ページを参照。

その他参考測定方法

アウトカム 6-2. サービスの受け入れと利用の継続・定着

指標 サービスの利用状況

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 6 ヶ月以上サービス利用を継続している者の人数 _____ 人

問 2. 1 年以上サービス利用を継続している者の人数 _____ 人

問 3. 2 年以上サービス利用を継続している者の人数 _____ 人

問 4. サービス利用の必要性がなくなり、サービスを終了した者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 7-1. 地域の中で個別的就業にかかわりを持つことができる

指標 話・相談ができる人、趣味・相談ができる人がいる者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート調査

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』を一部加筆・修正

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 普段、話をしたり、ちょっとした相談をする相手がいる者の人数 _____ 人

問 2. 趣味・娯楽を一緒にする相手がいる者の人数 _____ 人

問 3. 身体の具合が悪い時に連絡できる相手がいる者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 7-2. 家族等との関係の再構築

指標 家族と連絡をとっている者の人数

測定方法 実態調査、あるいは関係機関へのアンケート

出所：特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会（2013）『生活困窮者・生活保護受給者の自立支援のための地域における包括的な支援体制の研究報告書』を一部加筆・修正

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. この 1 年間で、家族・親戚等と連絡をとった者の人数 _____ 人

問 2. 家族・親族等と同居している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 8-1. 生活満足度の向上

指標 生活に満足している者の人数

測定方法 実態調査、あるいは関係機関へのアンケート

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 現在の生活に満足している者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 8-2. 自己肯定感の向上

指標 自分自身に満足している者の人数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 自分自身に満足している（自信がある）者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 9. 本人が望む場所での自立した日常生活

指標 望む場所で生活している者、困りごとのない者の人数

測定方法 実態調査あるいは、アンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当するホームレス（元ホームレスを含む）の人数をカウントしてください。

問 1. 本人が望む場所で生活できている者の人数 _____ 人

問 2. 現在の生活に困りごとを抱えていない者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 10-1. ホームレス問題に関する知識・関心の向上
指標 ホームレス問題に関心のある人・知識のある人の人数
測定方法 地域住民へのアンケート調査

出所：

調査地域について、下記に該当する地域住民の人数をカウントしてください。

問 1. ホームレス問題に関心をもっている者の人数 _____ 人

問 2, ホームレス問題について何らかの知識をもっている人の人数 _____ 人

※ 問 2 の何らかの知識とは、ホームレス問題の現状や、使えるサービス、その他についてを指す。

その他参考測定方法

アウトカム 10-2. ホームレスとの適切な交流の増加
指標 ホームレスと交流をもったことのある者の人数
測定方法 地域住民へのアンケート

出所：

調査地域について、下記に該当する地域住民の人数をカウントしてください。

問 1. 最近 1 年間でホームレスと交流があった者の人数 _____ 人

その他参考測定方法

アウトカム 11-1. ボランティアの増加

指標 ボランティア活動に参加した者の人数

測定方法 地域住民へのアンケート

出所：

調査地域について、下記に該当する地域住民の人数をカウントしてください。

問 1. 最近 1 年間でホームレス（元ホームレスを含む）の調査に参加した者の人数_____人

問 2. 最近 1 年間でホームレス（元ホームレスを含む）を対象とした炊き出し（配食）ボランティアに参加した者の人数_____人

問 3. 最近 1 年間でホームレス（元ホームレスを含む）の見守り活動に参加した者の人数_____人

問 4. 最近 1 年間でホームレス（元ホームレスを含む）を対象としたその他のボランティア活動に参加したものの人数_____人

その他参考測定方法

アウトカム 11-2. NPO など支援組織の増加

指標 ホームレス（元ホームレスを含む）を支援する NPO 法人等の数

測定方法 実態調査あるいは、関係機関へのアンケート

出所：

調査地域について、下記に該当する支援組織の数をカウントしてください。

問 1. ホームレス（元ホームレスを含む）を支援する NPO 法人等の組織数 _____ 箇所

その他参考測定方法

**社会的インパクト・マネジメント・イニチアチブ
アウトカム・指標ワーキング・グループ**

(50 音順)

大沢 望

鴨崎 貴泰

川合 朋音

新藤 健太

藤田 滋

福祉分野（介護予防）評価ツール作成チーム

(チームリーダー)

新藤 健太（群馬医療福祉大学社会福祉学部 助教）

(チームメンバー；50 音順)

巢立 佳宏（群馬医療福祉大学社会福祉学部 助教）

高橋 浩介（横浜市青葉区生活保護ケースワーカー）

藤本 優（大妻女子大学人間関係学部 助教）

松本 浩美（NPO 法人 Homedoor）

本ツールセット作成にご協力頂いた方々（50 音順；敬称略）

油井 和徳（特定非営利活動法人山友会 副代表）

お問合せ先

GSG 国内諮問委員会 事務局
一般財団法人社会的投資推進財団
03-6229-2622 / info@siif.or.jp